

発達障害学生の
支援を行う

コーディネーターに
求められること



和歌山大学 障がい学生支援部門
森 麻友子

本題に入る前に...

① 高等教育機関で学ぶ



② 発達障害のある



③ 大学生を支援する



3つの視点
について

① 高等教育機関の視点

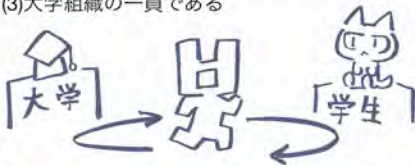
(1) 社会に送り出すという高等教育の重要な使命



(2) 期間が限定である



(3) 大学組織の一員である



② 発達障害の視点

(1) 障害のある学生の権利を擁護する



(2) 発達障害の理解

診断ない



自覚ない



どこまでが合理的配慮?



③ 大学生の視点

(1) 発達課題 青年期

アイデンティティー



(2) 学生期の課題

入学



時期によって
課題は異なる

就労



障害学生支援

社会的障壁の除去
教育機会の提供

学生相談

心理社会的な成長
発達、回復の促進



コーディネーターの役割

では

コーディネーターは
何をしているか？

そして

コーディネーターに
必要な知識・技術・態度
とは？



コーディネーターの現状

大学に
よって
基準が
バラバラ



教員
or
職員



専門性

教育? 福祉?

心理?



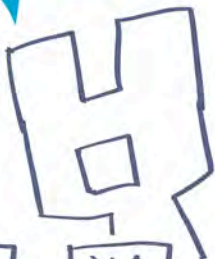
専任
or
兼任



資格の有無



コーディネーターは
何をしているか？



Ⅰ 学生の個別相談

主に修学に
関する支援



自己決定

短・中・長期の
見立て支援



学生のニーズを把握

(今回、このことへの対策)

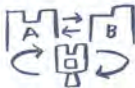
2

学内組織と修学支援の調整

障害学生に公平な教育の
機会を提供するため



適切な関連部署と連携・協働し
修学における調整・工夫を行う



学内組織へ知識や
ノウハウを提供する



差別解消を推進していく
アドボケイターとなる
(代弁者)



必要な知識

障害の理解  (特性)

倫理・法の理解 

テクニカルスタンダード

根拠資料

標準化
土木
心理検査
等の結果  障害者手帳
など



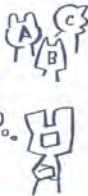
大学の方針や規定
学内部署の機能や
担当者の役割の把握など



必要な技術

学内の文化・政治を知り
実践に活用。相手に根拠
をもって説明できるなど

学内の誰に
どんな言い方を
すれば理解
してもらえるか



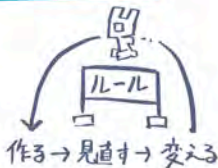
必要な態度

客観性、中立性
バランス感覚
柔軟さ、忍耐力など



3 支援体制の構築・運営

規定やガイドラインの
作成・再検討・改定



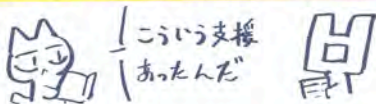
予算の策定と獲得
財源の管理活用をする



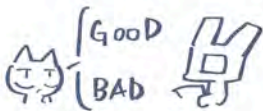
HPなどで情報を発信する



障害学生支援サービスや利用方法について周知



学生から
支援サービスの
評価を得る



グループワークや
就労関係など
学生の自立を促す
活動の開発と評価



人権や障害支援に関わる
学内委員のメンバーとなる



報告書を作成し
管理職に報告する



スタッフに関する
マネージメントをする

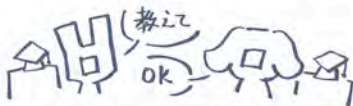


④ 学外連携

教育や医療
行政、支援機関
などと連携する

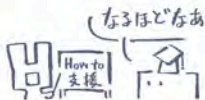


大学間で
連携する



⑤ 教育・啓発

大学全体の意識を向上させる



教職員に
対しての
研修



教員と一緒に
学生への対応
を考えていく



障害の無い
学生に対して
授業を行う



6 専門性の向上

コーディネーターは
まだ過渡期



スーパー
ビジョン



研修



文献



最新情報



学会



心理職に関する コンピテンシーの基準



【基礎コンピテンシー】

I. プロフェッショナリズム

1. 専門性としての
倫理観と姿勢
2. 個人と文化の多様性
3. 倫理的な法的基準と方針
4. 客観的実践

セルフアセスメント
セルフケア

II. 関係性

1. 関係性

III. 科学

1. 科学的知識及び手法
2. 調査/評価

【機能コンピテンシー】

IV. 応用

1. エビデンスに基づく実践
2. アセスメント
3. 介入
4. コンサルテーション

V. 教育

1. 指導
2. スーパービジョン

VI. システム

1. 学際的システム
2. マネージメント(管理)運営
3. アドボカシー

心理職
目

コーダ・ネーサーに特化したシステム

コンピテンシーとは？

知識・技術(スキル)

姿勢(価値観や態度など)

見えやすい
ところ

知識

技術

見えにくい
ところ

姿勢



I プロフェッショナリズム

① 専門家としての価値観と姿勢

一貫性



専門家としての
価値観に
一貫性がある

態度



さまざまな場面で
専門家として適切
にふるまう

他者を
尊重する



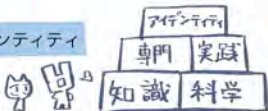
個人的な信念や
価値観と矛盾する
場合でも他者の
それを尊重する

説明責任



説明責任を果たし
外部からの評価を
受け入れる

アイデンティティ



専門家として
科学と実践の
統合ができる

② 個人と文化の多様性

自身の価値観は
さまざまな社会的
文化的要因により
形成されていると
気づいている



他者も
同様である



それが支援にも
影響を与えることを
認識している



③ 倫理的な法的基準と方針

法律やガイドライン
などに関する知識を
持っていて支援に
活用できる



④ 省察的实践/セルフアセスメント/セルフケア

自分のコンピテンシー
を知って実践に生かし
たり対処したりする



他者に
助けを
求める

研修などで
補っていく



II

関係性

対人関係



個人だけでなく
同僚、組織
コミュニティと
効果的な関係を
発展させ維持する
ことができる

感情に 関わる スキル



難度の高いコミュニケーションを取り扱う

建設的対話
(本人が何をしたいか)
+
場合によって
根拠ある提案

表現の スキル



+

非言語
および
書面



有益 ☆
明瞭 ☆
簡潔 ☆
洗練 ☆
統合 ☆
さ本たもの

Ⅲ

科学

科学的思考
基盤があり
専門的実践
に生かせる



Ⅳ

応用

Ⅴ

教育

とんてVIへ



VI システム

多職種
との協働



自分の
業務と
内容等を
伝える

資格
技術

協働者の
視点と
寄与を
理解する

学際的な
コラボレーションや
コンサルテーションに
関与することがいかに
効果を高めるかを理解
している

業務と内容

管理
運営

プログラムや組織に
建設的批判と提案を
することができる



システム変更及び
経営構造に関与する
またはキーパーソン
と関係を築く



アドボカシー



個人、制度、システムレベルで
変化を促進するための活動をする

コーディネーター まとめ



社会

社会がよりよく
変化するよう
アドボケーターに
なることができる



大学 コミュニティ

学内の関連部署と連携し
修学における調整・工夫を
することができる
コミュニティにおける
理解・意識・文化の
改善に寄与することが
できる(PHED,2020)



学生

主に修学における
困りごとを把握し
支援することができる



今後の発展に向けて

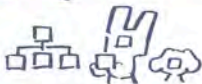
高等教育機関
(発達)障害
大学生



コーディネーターの業務
コンピテンシーの明確化



体制の構築・見直し
人材の配置・養成



各関連部署との協働



学生が主体となる適切な支援へ

